

様式第2号（第7条関係）

会 議 録

会 議 の 名 称	第2回川島町総合教育会議	
開 催 日 時	平成28年10月24日（月）午後3時から	
開 催 場 所	川島町役場 第2委員会室	
議 題	(1) 統合小学校の校名案の決定について (2) その他（報告） ①川島町におけるいじめ問題の取組みについて ②川島町における学力向上について	
公開・非公開の別	公 開 ・ 非公開 ・ 一部非公開	
非公開の理由 （非公開の場合のみ）		
出席者	構成員	飯島和夫町長・若林昌善副町長・中村正宏教育長・ 菊池建太教育長職務代理人・福島彰教育委員・ 及川三栄子教育委員・猪鼻恵美子教育委員
	事務局職員	石島一久参事・石川和貴主幹・神田雅貴主査（以上政策推進課）、粕谷克己副教育長兼教育総務課長・坪内嘉夫室長・山崎清主幹（以上教育総務課）、関吉治課長（以上生涯学習課）
配布資料	会議次第 資料1・2・3	
審議会等の内容・概要		
<p>1 開 会</p> <p>（司会より会議の開催にあたり、川島町審議会等の会議の公開に関する要綱に基づき、会議は原則公開であることを説明する。会議録については、発言委員名を記載して公開する旨で構成員より了承を得る。）</p> <p>2 あいさつ 町長</p> <p>3 議 事</p> <p>町 長：本日の会議の議事については、個人情報等を特に取扱っていないので公開とし、会議録の作成は、発言者の名前は記載し、要点をまとめて記録する。最後に、会議録の署名は、及川委員を指名したい。</p> <p>教育委員：異議なし</p>		

(1) 統合小学校の校名案の決定について

(事務局にて、資料1を用いて説明)

町長：ただいまの説明で、新しい学校の校名案の選定は、「地域の枠に捉われない」「小中一貫教育を推進する」という、新たな発想、取組みで進められてきたこと。そして、教育委員会では、このような観点に基づき、さらに「方位」、「地域の特色」、「将来に対する期待感」の3つのカテゴリーを設け、最終的に5件の校名案を選定したことが分かった。でも率直な感想として、この3つのカテゴリーをすべて満足する校名はなかなか見つからないように感じた。では、菊池教育長職務代理者・福島委員は、学校規模適正化に長く関わってきているので、新しい学校の校名案に対する考え、想いを述べていただきたい。

菊池教育長職務代理者からお願いしたい。

菊池委員：「川島」という地名は、川が作った地名ということで大変に判りやすいと思うが、一般的で無難な名前というようにも感じる。多くの校名案の応募があったが、「かわじま南」「かわじま北」も、言葉のイメージに広がりがないように感じる。将来に対する期待を学校名として考えた場合には、圏央道が県内全域に開通したことにより、町に変化・発展をもたらすことが期待されており、東西に伸びていくその様は、翼のように思える。そこで、子供たちや町が将来に羽ばたいていくことを期待して、平仮名の「つばさ南」「つばさ北」が良いと思う。

福島委員：3つのカテゴリーがマッチし、町の歴史的な観点からも考え、「いなほ南」と「いなほ北」を選んだ。市街化調整区域にある4地区では、昔から稲作が行われていること。稲作に関連のある民謡があったり、学校では稲作を体験学習に取り入れていること。これらから、子供が稲穂のように実り人間性が豊かになり、将来に大きく飛躍してほしいという願いをこめて選んだ。もう1つは、圏央道川島インターといった新しい施設ができた点をふまえると、未来に向けて、自ら進んでアクティブに行動するという観点がほしいと考えて、「つばさ南」「つばさ北」を選んだ。圏央道の側道に「つばさ・みらい通り」という名称が付けられ、その側道の南北に小学校が位置している。子供たちが未来に向けて飛び立とうとする姿が校名から浮かび上がってくると思う。未来に向けてアクティブに力強く飛び立ってほしいという願いをこめて選んだ。

町長：及川委員と猪鼻委員におかれては、約1か月前に就任されたわけですが、2名の先輩委員の発言に対するご感想があったらお願いしたい。

及川委員： お二人の教育委員さんがお話されたように、川島町には、素晴らしい豊かな自然や人間の力があるが、今、これらを外へ発信する時だと思う。だから、躍動感を感じさせる校名が必要であると思う。地域性を入れたいという面もあるが、地域の方々が一つになって、川島の力を外に発信していくという意味で、学校名に力強さが必要だ。それ故に、「つばさ」という言葉が少し気に入っており、力強く羽ばたくこと、パワーや広がり、言葉から出てくる影響力、そういうものを感じる。それだけでなく、平仮名による表現のやさしさもありつつ、多くの人の願いを背負っていきながら未来へ進んでいくような、方向性も感じる。どの案もそれなりに良さがあるが、今の町には、「動き」が必要であると思う。次世代への大きな願いを校名に込めることが必要だと思う。

猪鼻委員： 私は、「いなほ南」と「いなほ北」が良いと思う。その理由は、田園風景が町の特徴であるし、各小学校でも稲作が授業で行われている。このことから、子供たちには稲に対する特別な想いがあるように感じている。それ故に、喜びや誇りが感じられるのではないかと思う。保護者も田園風景に安心を感じるところがあると思う。稲が実っていく様子を子供たちの姿に重ねて選んだ。

教育長： 応募された校名案の中では、平仮名の「かわじま」や、漢字の「川島」が入った名前が多く、「かわじま」という名称が、町民の方々に違和感なく受け入れられていると思う。しかし、昨年10月に県内を全線開通した圏央道が東日本の交通網の動脈となったことから、川島は圏央道と共に発展して行く町ということで、将来に羽ばたくイメージで「つばさ」という名前がふさわしいと思う。事務局としてまとめた5件の校名案の資料に「かわじま南・北」と「つばさ南・北」が入っている。

町長： ところで、5つの名前が出てきたが、他の市町村の校名の概要はどのようになっているのか。

副教育長： 他の市町村の学校名との混同を防ぐ必要があることを、教育委員さんからご指摘をいただいている。そこで調べたところ、漢字の「川島」という名前が付いた小学校は他にも存在するが、平仮名の「かわじま」は存在しない。「けやき」は8件あり、「輪中」は0件、「さくら」は245件、「いなほ」は3件、「みのり」は3件、「ひばり」は10件、「ふたば」は26件、「つばさ」は漢字の「翼」で1件、平仮名の「つばさ」がさいたま市に1件あった。

町長： 教育委員会で選定された5件について、教育委員さんからそれぞれの思いを聞くと、ここでは「いなほ」と「つばさ」という案になるかと思う。また、「南・

北」という方位については、川島中学校と2校の統合小学校が小中一貫教育に取り組むという趣旨から、名称に統一感を入れるということで、異論はないと思う。

さて、本会議は議長である町長と教育委員の意見交換の場であるので、私からも発言をさせていただきたい。

私は、川島町を小さくともきらりと光り輝く魅力ある町にしたいと思う。それは、町民がそのように感じるだけでなく、町外からも言われるようにしたい。それには、辛い状況を耐えながらも、将来を見据えて希望や明るい展望を抱くことが必要だ。そのようなことから、私は、川島方式こども学習支援システムの構築、学校規模の適正化、小中一貫教育の推進、地域活動センターなど、これまでにない先々を見た取組みを進めている。過去の経緯は大切であり、過去があるから今があるのだが、それ以上に町民の方々には先の希望や未来を感じていただくことが大切だと思う。未来を担う子供たちには、情操豊かに育ち、世の中に出て広く活躍してほしい。川島町から世界へ羽ばたいてほしいと願っている。

これまでの、皆さんの意見でも、「将来に対する期待感」が出ているようなので、小学校の校名案は、「つばさ南」と「つばさ北」が良いと感じる。現在、町の主要道路には名前が付けられており、町の中央を南北に走る道路には、沿道に咲く桜がきれいであることから「さくら通り」、東西を走る圏央道の側道には、翼が広がるイメージから「つばさ・みらい通り」という名前が、議会での審議を経て名付けられた経緯がある。どのような校名案を選んでも、異論はあるかもしれないが、私は先々を見たならば子供が飛躍するような「将来に対する期待感」が現れたものが良いと考える。この私の発言に対し、教育委員のみなさんはどう思うか。では、菊池教育長職務代理者からお願いしたい。

菊地委員：無難ということであれば「かわじま南・北」、これからの町の発展に力点を置くのであれば「つばさ南・北」が良いのではないか。「つばさ」という言葉は、道路に付けられた名前であることから、地域性が全く無いわけではないと思う。

福島委員：過去を踏まえながらも固執せず、川島の子供たちのために新しい方向で教育を行いたいということが教育委員になった時の私の思いだった。しかし、それを実現するには、財政が伴うし、段階的に取り組んでいくしかない。今後、子供たちは、グローバルな世界で生きていく必要がある故に、自ら考え行動するという意味で、アクティブに翼を広げていく必要があると思う。そのような観点から「つばさ南・北」という校名に賛同したい。今の川島は、昔で言えば米沢藩主の上杉鷹山が改革を行っ

た時代と同じ状況になっているのだと思う。この校名が、町内の地域性に固執せず、町全体が良い方向に変化していく起爆剤になればと思っている。

及川委員：松山女子高の校長在職中、創設 90 周年イベントを実施したときのことを思い出した。イベントを企画するに当たり、それまでの 90 年間を振り返って、「90 年の歴史に浸っていて良いのか」という声が出た。でもそうでなく「その歴史を大切にしなければ先には進めない」と説明した。高校の説明会資料の表紙に、大正 15 年の学校創設当時のはかま姿の女学生の写真を載せた。生徒たちには「かっこいい」と非常に好評であった。私は、この先輩がいるから、あなたたちは「私の母校です」と誇りを持って言えることを話した。でも、次に松女が変わる時の「あなたたちの考えを聞きたい。」と話した。

この町に転入してきて、私は、町の色々な歴史を知った。堤防が無かった時代、先人たちは長い間水害と戦ってきた。それは大事な歴史であり、プライドだと思う。だからそれは失ってはいけないし、より一層強くしていかなければならない。また、昔は、町外まで歩いて学校に通ったという話も伺った。外へ知識を得に行き、得た知識を持ち帰り仲間に教えることで町が発展してきた。このように川島には、素晴らしい歴史と財産がある。歴史は失うものでなく積み重ねていくものである。歴史を大事にしつつも、今、町は、発信と勢いと躍動感が必要だと思う。「つばさ」という名称には、そのような背景が込められているので、町長の意見に賛同したいと思う。

猪鼻委員：「つばさ」という名称から、子供が目標や夢を持ち、勉強しよう、何かを知ろうという気持ちになれると思う。この名前が良いと思う。

町長：ありがとうございます。議論した中で、それぞれの名前に良さはあるが、私の想いである先を見る、子供たちの将来・未来・希望を踏まえて、皆さんの総意ということで、「つばさ南小学校」、「つばさ北小学校」を校名案に決定したいがいかがだろうか。

各委員：はい。

町長：それでは、教育委員会で選定した 5 件の校名案について、本日の総合教育会議で協議した結果、校名案が 1 つに決定されたことになるが、あとは議会で審議、議決を得て正式に決定となる。そのために、12 月議会に学校設置条例の改正案を提出させていただく。そのような段階に入ったということでご理解をいただいてよろしいか。

各委員：はい。

(2) その他

①川島町におけるいじめ問題の取組みについて

(事務局にて、資料2を用いて説明)

町長：いじめ問題は、総合教育会議における重要な協議事項です。しっかり取組みをお願いします。

②川島町における学力向上について

(事務局にて、資料3を用いて説明)

町長：学力向上は、町として重要施策と位置づけております。しっかり取組みをお願いします。では、進行を事務局に戻します。

③次回の総合教育会議の日程について

政策推進課参事：次回の総合教育会議の開催日時を決めたい。

副教育長：廃校後の跡地・施設の利活用については、川島町小学校統合協議会における重要な検討事項の1つである。廃校利用班では、現在、先進事例の視察を中心に行っているが、視察で得た知見等を基に、今後、検討作業を行う。そこで、廃校後の跡地・施設の利活用の検討経過等を、今年度中に、総合教育会議において報告させていただきたいと思う。時期は、平成29年2月を考えている。

政策推進課参事：では次回の総合教育会議を、2月の定例教育委員会終了後に予定したい。

4 閉 会 教育長

署

名

及川三栄子

